



第5回日本 CNS 看護学会	岡本充子	2
市民公開講座	濱口卓也	3
アクティブラーナー研修	川井和哉	5
第8回高知県泌尿器疾患レジデントセミナー		9
クリニカルパス大会	坪井香保里	9
看護師特定行為開講式を開催	川村佳代	12
特定看護師 研修修了後の今	山本暢明	12

www.chikamori.com ● 高知市大川筋一丁目 1-16 tel. 088-822-5231
発行●2018年6月25日 発行者●近森正幸 / 事務局●寺田文彦

5月21日に生まれ変わった、社会福祉法人ファミリーユ高知しごと・生活サポートセンターウェブ

OWNパス／スウェルの事業について

就労継続支援 A 型「OWNパス」
サービス管理責任者
主任 沼 慶子



OWNパスは、昨年の4月に「就労継続支援 A 型事業所」として開所しました。障がいをおもちの方で、一般の仕事に就職したもののさまざまな理由で仕事を続けられなかった方や、長期入院や療養のため、再度仕事に就く自信のない方を対象に、雇用契約を結びクリーニングや社会活動の場を通して、知識や能力の向上のための訓練や支援を行っています。

2年目の今年度は、その名前「own path（自分の道）」の通り、自分の道を自分らしく進んでいける、飛躍の年にできればと思っています。チャレンジ、変化、変革を恐れずに、たくさんの夢を語りあい、支えてくださっている方々への感謝を胸に、これからも活動していきたいと思っています。

ぬま けいこ

就労継続支援 B 型「スウェル」
サービス管理責任者
主任 中越 太一



スウェルは「就労継続支援 B 型事業所」として利用者一人ひとりの「働きたい」気持ちを大切に「働き続ける」ために必要な支援を利用者の特性に合わせて行っています。スウェル (swell) はサーフィン用語で「波が崩れる前の水が盛り上がり移動している状態」を意味し、ウェブで自分自身にとって仕事や生活に必要なスキルを知り、夢や希望に向けて推進力を高めて進んでいきたいと命名しました。

B 型事業所は平成 30 年の制度改定に伴い、基本報酬の算出方法が利用者の平均月額工賃となりました。利用者のスキルを高めることだけに目を向けるのではなく、営業や環境、ネットワークなど多面的、多角的な視点を持ち、準備して頂いた最高の環境を活かし、多くの方々にとって幸せの拠点になるように歩んでいきたいと思っています。

なかごし たいち

- 🔧 まくいかないこともあるけれど、上手く進んでいることもある。利用者や支援者が自分自身の思考や視点を柔軟 (flexibility) にできるように。
- 🔧 いことが (土佐弁：標準語では良いこと) あった時は一緒に喜びたい。色々な体験や活動を通して安心感と信頼関係を築きたい。
- 🔧 本筋の通った
- 🔧 れない軸をしっかりと持つこと。そして、高知家が元気であり続けるために人と自由 (freedom) な発想を大切にしたい。



障害者は雇用契約に基づきながら一般就労を目指す。

賃金が支払われる (最低賃金以上)



障害者は就労の機会を得てA型・一般就労を目指す。

工賃が支払われる (成果報酬)



CNS の真価を発信する機会に

第5回日本 CNS 看護学会 大会長
社会医療法人近森会理事 兼 統括看護部長 岡本 充子



▼精神看護 CNS の久保看護師長 ▼在宅看護 CNS の山本看護師長



6月2日(土)東京都大田区産業プラザ PiO において、およそ 980 名の方に参加いただき、第5回日本 CNS 看護学会を開催しました。

高度実践看護を担う専門看護師(CNS)の活動をより広く世の中に発信していく場として分野(全13分野)持ち回りで CNS 看護学会を開催しており、第5回大会は老人看護分野が担当となり、老人看護 CNS の初回認定



者として私が大会長の大役を担うこととなり、チーム老人看護で準備を進めてきました。

大会のテーマを「高齢多死社会を支える高度実践看護—専門看護師の真価を問う—」とし、大会テーマでの大会長講演、日本看護協会会長 福井トシ子先生による基調講演、シンポジウム、座談会、各種セミナーなどを企画し、口演・ポスター発表も 57 題ありました。近森病院からは、精神看護 CNS の久保博美さん、在宅看護 CNS の山本詩帆さんが活動

報告を行いました。

本学会を通して誕生から死までの時間軸の流れの中で、医療と介護、生活をつなぎ、誰もが住み慣れた地域でその人らしく最期まで暮らせることを支えていくために必要な高度実践看護とは何か、専門領域や立場を超えて議論し、CNS の真価を発信する機会にできたのではないかと考えております。

学会開催においてはさまざまな方々に多方面にわたるご協力をいただきました。この場をお借りしてご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

おかもと じゅんこ



▲前列左から4番目、筆者

近森病院

IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテルの実施施設に認定されました。



7月の歳時記

近森病院 7階 A 病棟
看護師 宮下 智子



奈良時代より日本人に親しまれ、花の儂さが一期一会の茶道の精神にも合致するとされ、現代では代表的な夏の茶花として有名で、底紅木槿は千宗旦が好んだことから宗旦木槿とも呼ばれます。

早朝に花を開き、夕方には閉じて

木槿 (むくげ)

しまうことから、人の世の短い栄華を例え、「槿花一朝の夢」という故事もあります。



私の実家でも、毎年夏の間次々に花を咲かせ、樹いっぱい咲き誇る木槿をみて元気をもらっています。

みやした ともこ

◀写真も筆者

教えて！ドクター おしっこのこと



近森病院泌尿器科
部長 瀨口 卓也

6月10日当院管理棟にて市民公開講座を開催しました。今回は高知大学から二人の泌尿器科のスペシャリストをお招きし、一般市民の方にわかりや

齊藤教授は、毎月第4金曜日の午後、近森病院泌尿器科にて難治性尿障害外来の診察をしています。

毎月第4金曜日午後 難治性尿障害外来（予約制）

排尿薬理学のエキスパート サイトー教授の外来診療

難治性排尿障害外来 近森病院

■ 難治性尿障害外来では、排尿薬理、神経薬理についての研究を深め、なかなか治らない原因を説明し治療していきます。

■ 薬理学とは、薬と生体の相互作用を解き明かす学問のこと。例えば、薬はどうやって体に効果をもたらし、薬はどのように薬の最も適切な薬、薬理学の視点から診断・治療します。

■ 薬理学の重要性
薬理学の重要性は、薬と生体の相互作用を解き明かす学問のこと。例えば、薬はどうやって体に効果をもたらし、薬はどのように薬の最も適切な薬、薬理学の視点から診断・治療します。

すく講演していただきました。

第一部は高知大学薬理学講座齊藤源顕教授の講演で「おしっこは近くありませんか？頻尿のおはなし」、第二部は同泌尿器科学講座井上啓史教授「新しい癌医療の道を照らす、光で診て、光で治す」という内容でお話いただきました。

第一部では生活の質に直結する頻尿、尿失禁のお話を分かりやすく説明いただき、みなさん熱心に聞いておられたようです。

第二部は光を利用した膀胱がんの最新治療について丁寧にお話いただきました。当日は生憎の悪天候でしたが、約90名の市民の皆様にご参加いただ

第一部 齊藤源顕先生



第二部 井上啓史先生



き、盛況のうちに終わることができました。

今回の市民公開講座を機に、泌尿器科という科をもっと身近に感じて頂き、「おしっこ」のことで悩まれる方の受診機会につながればと思います。

はまぐち たくや



看護部 キラリと光る看護

ふたつの安心

救急看護認定看護師

近森病院外来センター 看護師長 和田 道子



「それは安心ですね」

救急現場から離れ、なんとなくやりがい薄れていた頃、ある講演会で講師の先生と話す機会があり「救急の認定で、現在は専門外来で師長をしています」といった挨拶をした際にいただいた言葉です。その時はあまりピンときませんでした。

ある日、造影剤によるアナフィラキシーショックが発生しコールされ駆けつけました。救急処置を担当しその後入院となった患者さんから、「苦しくて怖い思いをしましたが、看護師さんが来て声掛けしてくれ、説明してくれ

先生と一緒に治療してくれた、あれで安心しました」と言っていただきました。

この時の対応について当事者を含め皆で振り返りを行ってみました。処置する環境はどうだったか。物品はそろっていたか。コール体制は大丈夫だったか。緊急度やそれに伴う観察項目処置など「何故」「どうして」を説明しながら一緒に改善点を考えていきました。

「師長が来てくれて安心した」とスタッフに言われた時、あの日のあの言葉「それは安心ですね」がすんと落

ちてきた。それから、「そうだ、急変はいつどこで起きるかわからないもの。まして、日ごろから救急対応をしている部署でなければいざという時は不安のはず。慣れていないとどこそ必要」と。先生はこのことが言いたかったのだと。それから、今いる場所、立場で、できることを見つけ活動をしています。

今後も「患者さんの安心とスタッフの安心」ふたつの安心を作れるように、おかれた場所で努力していきたいと思

わだ みちこ

父の日特別企画！

～看護師の父と、医事課の母へ～

近森病院薬剤部 薬剤師 東野 愛
 近森病院総合心療センター 4階病棟
 看護師 東野 陽介



今回、父の日のサプライズ企画ということですが、せっかく執筆の機会をいただきましたので、

普段なかなか言えない両親への感謝の気持ちを書かせていただきたいと思います。

お父さん、お母さん、私たちの夢を応援してくれてありがとう。

私が県外の大学で6年間、高知を離れていた時も、日用品や食品をたくさん送ってくれたり、電話で相談を聞いてくれたりしたことがとても心の支えになりました。

毎日朝早くからお弁当を作ってくれたり、勉強へのアドバイスのおかげで陽介も実習や看護学校での生活を無事に送ることができたと思います。

二人が応援してくれたおかげで、私



たち二人は無事に国家試験に合格できました。

そして今年の春から近森病院へ家族4人で働かせていただけていますね。

陽介が初任給でいままでの感謝の気持ちを込めて買ってきてくれたケーキは今まで食べたケーキの中で一番思いが詰まったおいしいケーキでしたね。

最近少し家事を手伝うようになって、仕事をしながら家事をする大変さを知りました。

いろいろ迷惑をかけるかもしれませんが少しずつ親孝行していきたいと思っています。

最後になりますが、私たちを大切に育ててくれてありがとう。

ひがしの あい
 ひがしの ようすけ



母の日サプライズの瞬間を激写

記事を見つけるや否や、近くのクラークさんに「いやー!! 知っちゃった、これ?」と、サプライズ掲載のことを聞く、嬉しそうな石嶺さんでした。



6月号掲載



採用試験
 筆記試験 7月28日(土)
 面接試験 7月29日(日)

- インターンシップ
 随時：希望に応じて実施しています
- ◎臨床中コース ◎医療安全コース
 - ◎整形外科コース ◎消化器コース
 - ◎ER・集中コース ◎循環器コース
 - ◎まごころコース ◎外来在宅コース
- (テーマ医療体験)
 ※その他希望に応じて開催します※

▶詳しくはHPへ



● 近森看護学校通信 28 ●

校外研修に行ってきました

4月27～28日の2日間、1年生が国立室戸青少年自然の家で、クラスメイトとの交流を通してお互いの理解を深めることを目的に研修を行いました。学生たちは入学したばかりで、お互いのことがよくわからずよ

そよそしい感じでしたが、コミュニケーションゲームやスコアオリエンテーリング、野外炊事などで助け合いながら活動するなかで、学生間の緊張感も和らぎ、楽しそうに過ごしていました。

▶ゲーム



出会って間もない学生たちにとってはいい交流の機会になったように思います。これからの学校生活で辛いこともたくさんあると思いますが、お互いに支え合いながら学生生活を楽しんでもらいたいです。

(専任教員 上総 満高)



次世代を担う人材を育成するために

人材育成委員会委員長
近森病院副院長 兼 循環器内科主任部長 川井 和哉



昨年度より生まれ変わった人材育成委員会では、近森会グループ目標の設定などとともに、次世代人材育成に力を入れています。

今年度は新しく「アクティブラーナー研修」を企画し、各部門の未来を

託すべく医師を含む全職種を対象に70名が選出され、各2日×2班で開催しました。

講師はエデュネット協会の江藤かをる先生をお招きし、講義、グループ討議、ロールプレイングによる体験学習

を行ないました。

組織において自分たちが期待されている役割について考える、プレゼンテーションスキルを学ぶ、後輩指導を含めコミュニケーションスキルを磨く、などが盛り込まれ、各グループ内で活発に意見交換もされました。こうした職種を超えたつながりがセクショナリズムのない近森会の礎となることを願っています。

今回の研修では実際に法人内を巡回し、改善提案書を作成するワークも含まれています。次世代を担うアクティブラーナーの成長がとても頼もしく感じた研修となりました。

かわい かずや



▲医師の集合研修参加は初(4名)



▲講師の江藤かをる先生

何でもフリーコーナー

我が家のペット自慢

総務部秘書課 西岡 詩織

2匹いると「世界一かわいいよ」とは言えないので、それぞれに「トイプードルの中で一番かわいいよ」、「マルチーズの中で一番かわいいよ」と言っています。親ばかと言われようと、うちの子たちは本当にかわいいのです！

にしおか しおり

▼▶
【純一】トイプードル7才女の子
【純二】マルチーズ6才男の子



秘書の制服が変更されました。ゴールデンウィーク明けから新しい夏服になりました。色は黒・紺、形も2パターンがあります。上品かつ涼しく機能的なデザインです。



2018年 よさこいチーム 「ちかもり」

あと1カ月、本番に向け練習も熱く！乞うご期待。



75周年誌作成準備中



近森の厳しくも愛がある指導

近森歴

2008年9月 近森病院循環器内科 就職

2011年1月 退職

※2010年よさこい「ちかもり」へ参加。退職後も2年連続ビデオ練習で当日参加、その後も陣中見舞いにくるなど「ちかもり愛」が止まらない。

2008年から2年半近森病院の循環器内科に在籍した齋藤哲史です。近森病院時代の厳しくも愛がある指導は、医師として私の礎となっておりたいへん感謝しています。

現在は東京医科大学病院の心臓集中治療部の副室長として従事しています。最近はランニングが趣味になりました。高知龍馬マラソンに参加も考え

▼「ちかもり」2010年初出場時



ていますので、参加の際は応援よろしくをお願いします。

近森病院時代は、すべてが楽しい思い出でした。そのなかで、よさこい祭りの参加は大切な思い出のひとつです。参加決定は急であり、川井先生から「近森病院がよさこいに参加するなら当然、医師も参加せねばいかんろ！齋藤で一や」で決定となりました(笑)。

初めてでしたがスタッフさん(現代表Hさん)からの厳しい(怒り?)指導を受け成長しました。結果、初参加で賞を皆でとった経験は忘れられない思い出です。辛い練習を通して看護師、リハビリ、事務、医師などの多職種の皆がひとつになったことが、賞獲得に結びついた近森病院らしい結果だったと思っています。今年

私の趣味

人生の一部

医療福祉部

ソーシャルワーカー 溝渕 彬人



私の趣味と聞かれて思い浮かぶのがサッカーです。子どもの頃テレビで見た映像が印象に残ったのか、物心ついたときにはサッカーをしたい、と親にいていた記憶があります。意外かもしれませんが小学校、中学校、高校とサッカー部に所属しており、大学でもサッカーサークルに所属していました。

大学進学とともに知っている人のいない県外へ出て、大学生活や就職を経験しましたが、サッカーをしていたお陰でできたつながりも多く、サッカーが自分の人生を助けてくれます。自分と一緒にサッカーを

していた友人の結婚や子どもの誕生をきっかけに、プレーする機会が減り、見る機会が増えていますが、大人になった今も付き合うことのできる趣味に会えたことは幸せなことだと感じています。

6月14日からは4年に一度のワールドカップが始まります。今回はロシアで行われるため時間的にも試合を見やすそうなのでたくさんの試合を見たり、最近連絡を取ってなかった友人たちとも連絡をとろうと思っています。

みぞぶち あきと

東京医科大学病院循環器内科助教

兼 心臓集中治療部副室長 齋藤 哲史 先生



よさこい参加する方も全部出し切って頑張ってください。

私のなかで近森病院が素晴らしい病院であるという考えは今でも変わりません。さらなる活躍を期待しています。

さいとう てつし

「乞!熱烈応援」

「安心を贈る」体制作りへ



総合心療センター事務長兼
メンタルリハビリテーション部部长
兼 作業療法室室長 山内 学

これまでは、自分たちは臨床を中心に専念させてもらえることができていました。安心して周りを見ることができ、かかわることができていたことにとっても感謝しています。

今後も、「安心を贈る」ことが出来る環境づくりに気をつけ、ネットワーク強化をしていくことに勤めていきます。これまで以上に協業と支援をお願いします。

やまうち まなぶ

貴重な時間、OB・OG会

医療福祉部部长 川津 奈加

6月16日(土曜日)、初めてのOB会「医療福祉部の会」を開きました。当日は17名のOBを迎え、スタッフを合わせて50名程の集まりとなりま



かつての上司に成長を報告中!?

した。会は理事長の挨拶で開会し、部のはじまりから今までを振り返るプレゼンテーション、現在の取り組み報告、歓談と続けました。懐かしい写真には歓声が上がリ、会場のおちこちで久しぶりの再会や近況を話し合う姿が見られました。最後にはOBの皆さんから一言をいただき、「もっと聞きたい!」



▲川津プレゼン。部の始まりは1972年。現役スタッフはほとんど産まれていない
◆理事長の挨拶

の声のなか、閉会となりました。

医療福祉部は、圧倒的な能力と情熱で部門を切り開いた創始者にはじまり、今年で46年。各時代を支えたOBと現役スタッフが一堂に会せたことは、今後への確かな力になったと感じています。

かわつ なか

ハッスル研修医

理想の医師を目指して



研修医1年目 岡本 莉奈

この2カ月で学生から社会人になり、環境の変化に追いつくのに精一杯で、自分一人では何もできないもどかしさ、知識不足を日々痛感しております。

5月から当直も始まりましたが、スピード感に怖気づいてしまい、まだまだ積極性をもって臨めておらず、思い描く研修医像とは程遠い自分がいます。そんななかでも患者さんや共に働く近森病院の職員の皆様、上級医や指導医の先生方、同期にさまざまなことを学ばせて頂きながら、少しずつできることが増えていく喜び、やりがいも感じられてきております。

近森病院は職種を超えてのコミュニケーションが活発に行なわれている印象がとても強く、実際に働き始めてみると、改めて患者さんを取りまくチーム医療の大切さを実感しています。

まだまだ未熟者で挙動不審な言動も多い私ですが、謙虚な姿勢と笑顔で接することのできる医師を目指して日々経験を積んでいきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

おかもと りな

リレー エッセイ

も ず く

昨年の1月に我が家に新しい家族がふえました。セルカークレックスという種類の猫です。名前は同じ部署の先輩が写真を見て「毛がもじゃもじゃしてるでもずくみたいやね」と言ったのがきっかけでもずくになりました。

初めのうちは、なかなか私に懐いてくれず、ずっと部屋の隅に逃げて



▲左が冬毛、右が夏毛▲

診療支援部医事課 西川 由

しまいなかなか触れることさえ出来ずにいました。私自身も生き物をちゃんと育てたことはなくて、どうしたらいいのか分かりませんでした。少しずつですが、もずくも慣れてきて最近ではよく膝の上で寝てしまいます(笑) 夏の間は、もずくの名前の由来にもなった毛をサマーカットし、なんだか涼しそうになってしまいました。これから色んなことをもずくとたくさん体験していきたいです!

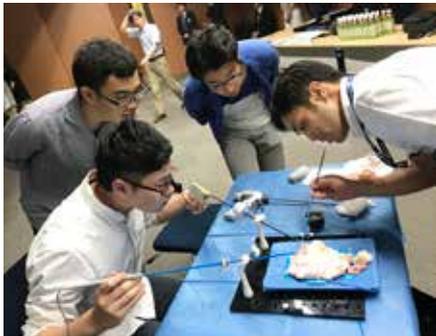
にしがわ ゆい

総勢 40名の参加がありました

近森病院泌尿器科

部長 濱口 卓也

「ちより街テラス」で開催された第8回高知県泌尿器疾患レジデントセ



ナーに参加した。他院からの講演3題に加え、当科からも葺石陽亮医師が「泌尿器科内視鏡について」という演題で講演した。本セミナーも高知大学井上啓史教授の肝いりのもと開始され、今回で8回目の開催となった。その名の通り、高知県のレジデントのためのセミナーでレジデントを含め総勢40名の参加があった。

レジデント諸君については先輩ドクターからの講義を聞いた後は、実技体

験セミナーにうつり、ダビンチシミュレーターなどの医療機器を用いて実技指導を受けた。普段の病院内業務、研修とはちがった雰囲気でのセミナーで非常に楽しく、有意義に感じていただいたのではないかとと思われる。

わが近森病院泌尿器科も、このような熱意ある将来性豊かな若手医師の育成に携わりつつ、レジデント諸君の成長に期待したいと思う、日々は雑感である。

はまぐち たくや

お弁当拝見 63 こだわりはご飯の硬さ



近森病院 HCU 看護師 中山 和代



私がお弁当を作る理由、それは幼き頃からのひどい偏食に遡ります。小学校時代は給食の時間がただ辛くて、パンと牛乳しか食べないことも。今ではそこまでの偏食はないですが、未だに克服できないのが、ご飯の硬さです。せっかくのお昼休み、今日のご飯の硬さはどうかと心配せずに昼食をいただくため、自分好みのハードめなご飯と好きなおかずを詰めて、早起きしてぐずる子供

と戦いながらお弁当作りを頑張っています。旦那の苦情は受け付けません(笑) なかやま かずよ



毎月第二金曜日午後

女性医師に相談できる

女性のための泌尿器外来

女性医師 中山 和代

おしっこが近い
頻りに合わない
我慢できない
強断すると漏れてしまう
それは仕方ありません
「泌尿器科にも相談してください」

夜やくしゃみなど
お腹に力を入れたときに
尿がもれる
それは仕方ありません
「泌尿器科にも相談してください」

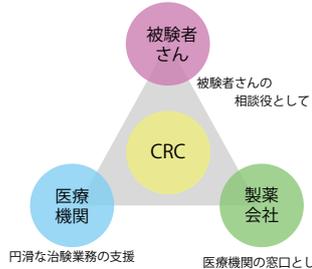
医師を希望される方は
泌尿器科外来までご連絡ください。

088-822-5231

中山 和代 先生

ザ・RINSHO 株式会社イスマ

医薬品の臨床開発（治験）の支援を通じて 人々の健康に奉仕する



株式会社イスマ 西日本事業所 治験推進部 四国グループ 島崎晴代さん

近年「治験」という言葉や、CRC（治験コーディネーター）といわれる職種がテレビ等のメディアで取り上げられ、少しずつ一般の方にも浸透しつつあります。
(株)イスマは、法律・規則等に則り、治験を医療機関側から支援し、「より良いお薬をより早く世の中に提供する

ことで、病気で悩んでおられる人々の健康に貢献すること」を理念としています。また、医療に特化したIT分野で成長著しいM3グループの一員として、臨床試験を電子化することで治験の効率化とスピード化を目指しています。医師をはじめ医療スタッフの皆さんと連携しながら治験を実施していく中で、治験薬が承認され、病院で使用



できる薬となった時、達成感と共に社会に貢献できたという喜びを感じることが出来ます。また、被験者さんから「薬が効いた」「治験に参加して良かった」と言って頂けた時には大きな励みになります。
これからも人々の健康に奉仕することを目指して、日々取り組んで参りたいと思います。 しまさき はるよ

14年振りの改訂で 「胃切除および胃全摘パス」へ

近森会グループクリニカルパス委員会 副委員長
近森病院消化器外科 部長 坪井 香保里

胃切除のクリニカルパス改訂を行いました。2004年から14年振りの改訂です。旧パスは現在の医療と合わず、今までは主治医ごとに治療計画が組まれ、パス改訂は長年望まれていました。以前は「胃切除（主に幽門側胃切除）」を対象でしたが、経過に差はないこと

から「胃切除および胃全摘パス」にまとめました。

胃の術後特有の食事対策としての5回食も、問題であった内容や提供時期を臨床栄養部の協力で解決できました。リハビリや内服もパスへの明記で指示や開始時期のモレがなくなりまし

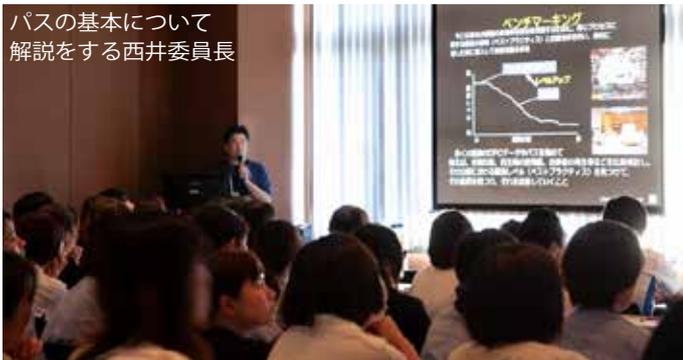
た。診療報酬点数の主治医による差も確認し、改善されました。

皆様のご協力のもとパス改訂を行なえ、パス大会も無事終わることができました。ありがとうございました。

つばい かおり



パスの基本について
解説をする西井委員長



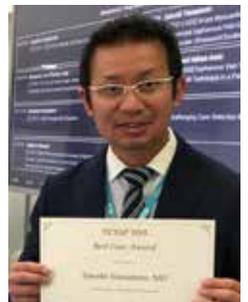
出張報告

2018年4月28日～5月1日

23rd Cardiovascular Summit Transcatheter Cardiovascular Therapeutics Asia Pacific (TCTAP) —
アジア太平洋経カテーテル心臓血管治療学会 2018年4月28日～5月1日

TCTAP で発表してきました

近森病院循環器内科
部長 山本 哲史



発表演題

山本哲史 A Case of Acute Myocardial Infarction Related to Twisted and Compressed Saphenous Vein Graft Successfully Treated by Intravascular Ultrasound guided Wiring
楠目宝大 Percutaneous Coronary Intervention for the Chronic Total Occlusion in a Noninfarct-related Artery Prior to Intervention for Infarct-related Artery in Patients With Acute ST-elevation Myocardial Infarction

23rd Cardiovascular Summit Transcatheter Cardiovascular Therapeutics Asia Pacific (TCTAP) — アジア太平洋経カテーテル心臓血管治療学会に当科楠目宝大と共に参加しました。

当院は県内随一の急性心筋梗塞患者数を誇る施設であり、今回はその中から興味深い心筋梗塞の2症例を発表して来ました。

本学会の症例報告はセッションごとに優秀演題が選ばれるコンペティション形式ですが、今回、二人の発表は同一セッションで、ライバルとなってしまいました。昨年は楠目が優秀演題賞を獲得しましたので、今年はなんとか私が取りたいと意気込んで臨みました。

楠目の発表は治療方針で意見の分かれる症例であり、多くの質問が集まりましたが、英語の質疑応答ではありませんでしたが、そつなく対応していました。私の発表は非常

に稀な症例で、日本語でも説明に難渋するものでした。英語で上手く表現できるか、スライド作りにも苦労しました。

結果、6演題中ではありますが、優秀演題賞を獲得することができました。拙い英語でしたが、聴衆に複雑な症例を理解してもらおうことができ嬉しく感じました。毎年のことながら本学会のもう一つの楽しみは韓国グルメです。他施設医師達とよもやま話に花を咲かせながら舌鼓を打ってまいりました。

これからも当院で経験した貴重な症例を若い医師と海外学会で発表していきたいと思えます。

やまもと さとし



ニューフェイス

- ①所属 ②出身地 ③最終出身校
- ④自己アピールなど



近藤雄一郎

こんどう ゆういちろう
 ①脳神経外科医師 ②高知市 ③高知大学医学部医学科 ④血管内治療のエキスパートを目指しています。救急診療を中心に経験を積みたいです。飲み会の誘い待ってます。

医学部学生・初期臨床研修医セッション 奨励賞受賞！



論文にも しっかりと目を通して

初期研修医二年次 今福 輝



4月26日～4

月28日、東京国際フォーラムで開

催された、日本リウマチ学会総会・学術集会にて「石灰化所見を欠く急性非化膿性頸椎炎の検討」という演題でポスター発表を行い、奨励賞を受賞することができました。

論文にもしっかりと目を通していたため、当日は飛び交う質問にも納得できる回答ができたと思います。指導していただいた吉田先生、公文先生をはじめ、ポスター作成に協力していただいた方々、ありがとうございました。

いまふく ひかる

おめでとう

編集室通信

「人生には上り坂、下り坂、まさかの坂」がありますとよく言われますが、そのまさかの坂で戻ってきました。現在は日本の医療が大きく変わる転換期であり、近森会グループでも若手がどんどん登用され若返りが図られています。頑張っている若手がいきいきと輝いている「ひろっぱ」でありたいと願っています。 楽隠居のなりそこない

人の動き 敬称略

愛あふれる言語療法のプロ

大学では文化全般を幅広く

言語機能や食べ物の飲み込みに障りが残った場合などに、リハビリテーションを行なう専門職として「言語聴覚士」が国家資格に定められたのは1997年12月だった。

その当時の井上浩明さんは近畿大学文芸学部文化学科で、「歴史や演劇など、文化全般を幅広く学ぶつもり…」の学生だった。その10年後、近森会に言語聴覚士として勤め始めることになろうとは、思いもよらないことだった…、らしい。

だが、言葉や聴覚の機能回復に関わる職種にとって、文化全般を4年もかけて学んだ日々は、療法に厚みを増す意味からも貴重な経験になったろう。

高知リハ学院移転で拓けた道

大学卒業後、実家に帰り、某有名企業の水産部門で4年間勤めた。人間関係も仕事内容も、「とくに不満はなく、気に入っていた。ただ、どこかでもう少し濃い人間関係を持ちたい」という思いが芽生え始めた…。

ちょうどそんな時期、近所に高知リハビリテーション学院が移転開設され、転職希望を持っていたわけではないが、学び直しを思い立つ。日頃の生真面目さや実直な考え方が新しい道を拓く原動力になったのかも知れない。

リハビリテーション部門で「言語療法」に進んだのは、友人のお見舞いで「言葉のリハビリテーション」を知り、敢えていえば「目新しさに惹かれた」ということだったか…。

胸に響いた近森リハ病院での実習

さて、実習先は近森リハビリテーション病院だった。諸先輩方の気長さには救われたようだが、「落第に近い出来の悪さ」を思い知らされ、とくに矢野和美科長に「見捨てず丁寧に指導してもらえた」ことが印象に残った。

とくに、患者さんに対しての、「言語に関わる療法という前に、人生とか

日常生活が見えるような向き合い方」を目指す指導法が胸に響いた。

目先の症状は例えば「失語」であっても、その奥に透けて見える生活に思いを至らせるための想像力を働かせる技術。こうした「カンタンに言葉に直すには難しい色々なワザを実習でじっくり学べた実感」が、卒業後の就職先には「近森会以外は考えられなかった」という結果に結びついたようだ。

一般企業で望んだ「人間関係の濃密さ」

最初の2年間は回復期、3年目から急性期に異動になった。当時、急性期の言語聴覚士は三人だけで、患者さんの病態はさまざまなのに職種としてシステム化されていない部分もあり、他のリハビリテーションスタッフに助けをもらいながら、「とにかく、生活を基本に据え、各職種の情報共有を密にすることで、患者さんがよくなることを肌で感じる事ができた」。

一般企業に勤めていた頃に望んだ覚えのある「人間関係の濃密さ」に触れ、やり甲斐も味わい、現在は科長として「スタッフが臨床に集中できるような環境を整え、プライベートも充実する仕組み作り」に精出している。

これまでも、これからも「趣味は娘」

さて、井上科長の人となりで、どうしても外せないのが「趣味は娘」の部分だろう。小学2年になった娘との毎日は、「お弁当紹介」や「私の趣味」シリーズで、その桁外れの溺愛ぶりを覚えている読者も多いのではないだろうか。

「寝起きの笑顔に溺れ、ご飯を食べる姿に溺れ…」で、毎日「愛に溺れま



▲愛しくて可愛くてたまらない娘と菜園で

▼口の動きや発音など各種検査器具一式を前に北館7階リハビリ室内の検査室で



くり」。アレルギーによる食制限がある娘のために、家族一同で無農薬玄米菜食を実施。リハ学時代の同級生で同じ職種に就いていた妻は、食生活をはじめとした生活全般の改善のために、パートタイム勤務に。それが喜びなのだ。

「娘のおかげで食事に気を使うようになり、僕の体重は10キロ減。お酒もやめだし、ジャンクフードも一切摂らない。空気のよりキレイな郊外に引っ越し、庭で野菜も作るようになった。なにもかも、家族みんなで娘の応援ができて、みんなで健康になってます！」。

照れも気負いもなくサラッと「健康家族宣言」のできる科長。その温かさには救われる人が多いことがよく分かる。今後ともどうか幸せに！ご壮健に！

2018年5月の診療数 システム管理室

近森会グループ	
外来患者数	18,407人
新入院患者数	977人
退院患者数	961人
近森病院(急性期)	
平均在院日数	14.67日
地域医療支援病院紹介率	70.02%
地域医療支援病院逆紹介率	152.19%
救急車搬入件数	537件
うち入院件数	279件
手術件数	425件
うち手術室実施	284件
うち全身麻酔件数	169件

● 2018年5月 県外出張件数 ●
件数 35件 延べ人数 69人

3期生 8名を迎えました

看護師特定行為研修指導責任者 川村 佳代



近森病院は、看護師特定行為研修機関の指定を受けてから3年目となりま



▼茶話会では、1期生や2期生から
激励の言葉が贈られた



した。今年度は、男性2名、女性6名の計8名の3期生を迎え、6月2日、無事に開講式を挙行することができました。

今後、受講生は勤務しながらeラーニングで共通科目を学び、月に2日程度の集合教育として講義や演習に参加します。更に、来年1月から3月までは、区分別科目の集中講義・演習・実習を行う予定です。

仕事と研修の両立は大変であり、そのサポートへの責任と重圧を感じておりますが、皆さま方にご支援を賜りながら、専門性を発揮してチーム医療の要となり得る看護師の育成を、目指したいと思っております。

かわむら かよ



特定看護師 研修修了後の今

私たちにご連絡ください

看護師特定行為研修修了者（一期生）
近森病院 5階C病棟看護師 山本 暢明



▼新人看護師の研修講師を務めることも



ここ数年、特定看護師というワードをよく耳にするとおもうのですが、実はよく知らないという方の為に簡単にご説明します。

特定看護師とは正確には看護師特定行為研修修了者と呼びます。なぜこういった研修が始まったかというと、内閣府高齢社会白書の日本人口統計から2025年頃に国民の3.3人に一人が高齢者となることが予想され、医療シス

テムを効率化する必要があります。看護師が高度研修を経て、認可を受けた看護師が医師診療の一部（特定行為）を行なうことで2025年に対応しようとする国の政策なわけですね。現時点では全看護師の0.05%ほどしかいませんが、これからどんどん注目される資格だと思います。

医療行為を行うかどうかを判断するためには、医師並に勉強して知識を習

得し、考察できなければいけません。写真右は点滴を検討するために、心エコーでリスク評価をしているところです。現在は、得た知識を生かして新人教育など看護スタッフの質向上に努めています。また、低血糖のアセスメントも積極的に行なっていますので特定看護師のPHSまで連絡していただくとアドバイスできることも多いと思います。

しっかり問診をし、身体所見を細かくとっていると、良くお医者さんに間違われませんが丁寧に説明してくれると患者さんにも喜ばれることが多いです。

やまもと のぶあき